

コモンズ30+しずぎんファンド

追加型投信 / 内外 / 株式



基準価額の推移

2014年12月29日 ~ 2021年9月30日



※「分配金込基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています。※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、年率1.265%（消費税込）です。



運用実績

2021年9月30日時点

基準価額

17,567 円

(前月末比)

+606 円 (3.57%)

純資産総額

10.5 億円

(前月末比)

+0.3 億円 (3.74%)

騰落率(分配金込)

期間	騰落率
1ヵ月	3.57%
3ヵ月	3.83%
6ヵ月	6.77%
1年	30.70%
3年	25.74%
5年	79.04%
10年	-
設定来	75.67%

分配金 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2016年12月	0円
2017年12月	0円
2018年12月	0円
2019年12月	0円
2020年12月	0円
設定来合計	0円

※「基準価額」およびその「前月末比」は分配後です。※「騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。



ポートフォリオの構成比

種別	比率
コモンズ30ファンドマザー	90.5
静岡銀行株式	8.0
現金等・その他	1.5
構成銘柄数	32社

※2021年7月30日時点



ポートフォリオの状況

業種別比率

機械	20.3%
化学	16.0%
電気機器	14.1%
サービス業	10.6%
輸送用機器	6.5%
卸売業	6.2%
情報・通信業	4.3%
陸運業	3.7%
食料品	3.6%
医薬品	3.4%
金属製品	3.4%
小売業	3.4%
建設業	1.7%
繊維製品	1.5%
その他	1.2%

未来コンセプト別比率

生活ソリューション	16.8%
ウェルネス	15.8%
精密テクノロジー	14.1%
新素材	11.6%
快適空間	10.2%
資源・エネルギー	8.0%
未来移動体	6.5%
地球開発	6.4%
ライフサイクル	5.9%
社会インフラ	3.5%
その他	1.2%

組入上位10銘柄

銘柄	未来コンセプト	銘柄概要	組入比率
1 KADOKAWA	生活ソリューション	IP創出力とIT技術力に支えられ、変化を恐れず挑戦し続ける	4.3%
2 東京エレクトロン	精密テクノロジー	創業時のエネルギーが、脈々と続く「革新」を続ける会社	3.9%
3 ヤマトHD	生活ソリューション	「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ	3.7%
4 カカクコム	生活ソリューション	インターネットユーザーに「便利」を届け続ける	3.7%
5 味の素	ウェルネス	「食・健康・いのち」の“UMAMI”で世界の食品トップ10を狙う	3.6%
6 クボタ	地球開発	日本で培った競争力で、アジアの食糧問題に寄与	3.6%
7 シスメックス	ウェルネス	起源は音響機器、今は血球計数分野で世界No.1、成長するグローバルニッチのリーダー	3.6%
8 SMC	精密テクノロジー	工場の自動化に不可欠な空気圧機器で世界シェアトップ	3.6%
9 ディスコ	精密テクノロジー	kiru、kezuru、migaku、世界を代表する精密加工装置メーカー	3.5%
10 日東電工	新素材	柔軟変化し、グローバルニッチトップ戦略で持続成長	3.5%

※2021年9月30日時点

※「ポートフォリオ別構成比」「未来コンセプト別比率」「組入上位10銘柄」に関しては、マザーファンドについての記載になります。

※各比率はマザーファンドの純資産総額を100%として計算しております。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※その他とは現金等を指します。

◎「未来コンセプト」とは、当ファンドが行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。

「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」



運用状況

◎運用レビュー

9月のファンドの月間リターンは+3.57%の上昇となりました。

◎運用責任者メッセージ

9月の内外株式市場は、中国不動産大手の恒大集団の債務問題による中国経済減速懸念や、米国のインフレ懸念にともなう米国長期金利上昇、港湾の混雑などに代表されるサプライチェーンの混乱などから、世界的に調整色を強める展開でした。

一方で国内株式市場は、欧米株式市場に対する出遅れ感、菅総理退陣による秋の解散総選挙における自民党の単独過半数割れリスクの後退、ワクチン接種比率の進展などから日経平均株価は年初来高値を突破し、1990年8月以来の31年ぶりの高値を更新しました。ただ、月末にかけては、世界的な株安に連動する形で調整色を強めて終わりました。

当マザーファンドは、月間では+3.39%の上昇、投資先31銘柄中21銘柄が値上がり、10銘柄が値下がりとなりました。同期間のTOPIX（東証株価指数；配当込）は+4.36%の上昇、日経平均株価は+4.85%の上昇となりました。

当マザーファンドの株式の組入比率は、98.8%と前月比+0.9%の上昇となりました。月末にかけての下落局面で丁寧な買い増しを行ったことで高位組み入れを継続しました。

個別銘柄の月間騰落率ではKADOKAWA+22.97%、日揮HD+13.53%、シスメックス+11.26%が上位3銘柄となりました。年初来高値を更新した銘柄が組入銘柄の約半数となる15銘柄となり、上場来高値を更新した銘柄もカカクコム、ダイキン工業、東京エレクトロン、KADOKAWAなど（銘柄コード順）の10銘柄ありました。

この結果、当ファンドは運用開始以来の高値を更新することが出来ました。

さて、岸田新政権がスタートし、新たな経済対策への期待や緊急事態宣言の一斉解除など、経済の再稼働にともなう年末株高を想定しています。

引き続き、安定運用を続けて参ります。どうぞ、ご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

投資委員会メンバー

○伊井哲朗、渋澤健、上野武昭、末山仁、原嶋亮介/○は最高運用責任者

組入比率と組入銘柄については、マザーファンドについての記載となります。



新規組入投資先

なし



今月のピック！

◎ (6869) シスメックス

9月はシスメックスの株価が11.26%上昇しました。

第1四半期の連結業績は、売上高が前年同期比+31.2%増収、営業利益は同+116.3%増益と倍増し、**昨年度の新型コロナウイルスによる業績悪化からの回復となる好調な決算**となりました。特に血液検査などの需要回復による検査試薬の販売増が牽引したほか、新型コロナウイルスの検査試薬なども好調な業績に寄与し、グローバル全地域において2桁の増収となりました。

エーザイと共同開発中の血液によるアルツハイマー病診断法については早ければ今年度内の承認取得を目指しています。

また、シスメックスと川崎重工との折半出資合併会社であるメディカロイド社による国産初となる手術支援ロボット「hinotori」の販売を、2030年度の売上高1000億円の目標に向かって、この第1四半期からスタートさせました。まずは日本市場で泌尿器科を対象領域とし、徐々に診療科を拡大させ、その後に海外展開していく計画です。

シニア・アナリスト 末山 仁

◎ (8058) 三菱商事

三菱商事は、**地政学的リスク、デジタル化、低・脱炭素化、といった変化への対応を経営の重要課題**としており、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、EX（エネルギー・トランスフォーメーション）を推進しています。

特に、DXについては70以上の案件が進行しています。強みを持つ食品流通業界において、グループの三菱食品との実証実験では、ビッグデータを活用し、物流センターの在庫を平均3割削減すると同時に、欠品率も総じて低下させることに成功しています。

日本では、年間約1兆円規模ともいわれる食品ロスの問題が社会課題となっていますが、これは主に流通プロセスで発生しています。三菱商事のデジタル戦略の頭脳となっているのが、2019年設立の100%子会社のエムシーデジタルです。これまで三菱商事は、中核組織に外部人材を投入することはあまり多くなかったのですが、エムシーデジタルは、外部からも人材をスカウトし、テクノロジーをもって課題解決していくプロフェッショナル集団です。

シニア・アナリスト 上野 武昭

◎ (6988) 日東電工

日東電工は9月10日、今後の経営方針などを説明する会社説明会を開催しました。この中で、2030年度のありたい姿からバックキャストした、**2023年度を最終年度とする新中期経営計画「Nitto Beyond 2023」**が示されました。

2023年度目標として売上高9,200億円（2020年度7,613億円）、営業利益1,400億円（同938億円）の過去最高業績を掲げるとともに、**同社の競争力の源泉である新製品比率を35%以上に維持することや、CO2排出量削減、女性管理職比率の向上といった非財務目標**が示されました。

また、各事業の概況についての説明の中で注目されるポイントとして、同社の手掛ける核酸医薬合成材料の事業にて、新型コロナウイルスワクチンのアジュバント（免疫補強剤）用途の出荷が今後大きく増える可能性が示された点が挙げられます。新たなワクチンの開発は現在も世界中で行われていますが、このアジュバントを活用することで、より大量生産が可能となり、より多くの人々に行き渡ることが期待されます。

アナリスト 原嶋 亮介



企業との対話

9月10日、コモンズ30ファンド投資先企業堀場製作所とコモンズ30塾
統合レポートワークショップを開催しました。

堀場製作所はコモンズ30ファンドが運用開始直後から保有をしている
企業の1社です。

統合レポートとは、企業の売上などの財務情報と、環境や社会への配
慮、知的資産から、ガバナンスや中長期的な経営戦略までを含む非財務
情報をまとめたものです。

同社は、統合レポート「HORIBA Report」を2013年版から作成。今
年は、社是「おもしろおかしく」のもと、ユニークな企業文化を育んで
きたHORIBAの「個性」そして「多様性」を、投資家をはじめとするス
テークホルダーに伝えたいとの熱いおもいをもって作成されたとのこと
です。

今回は、経営企画室経営企画・IRチームのチームリ
ーダーの鈴木美波子さまと後藤 祐太郎さまにお話を
伺いました。

鈴木さまからは、堀場クイズを皮切りに、堀場製作
所の事業や強みなどを簡潔にお話しいただき、その
後、統合レポートの作成を主に担われた後藤さまよ
り今年の統合レポートの特徴についてご紹介いた
だきました。

こちらの動画から当日のセミナーをご覧ください。
<https://youtu.be/zGk0-zmMYNU>



左上が鈴木さま、右下が後藤さま

担当アナリストの末山や運用責任者の伊井とのトークセッションでは、堀場製作所という自動車の排気ガ
ス測定器というイメージがあるが、レポートのトップに半導体セグメントをトップに持ってきた理由は？と
いった質問や、同社のESGへの取組についてもじっくりお伺いしました。

ご参加の皆さまからも多岐にわたる質問をいただきましたが、例えば、社是である「おもしろおかしく」は
どういった場面で実践されているのかといった企業文化に関する質問もいただきました。

ご参加いただいたお客さまからの感想として、

「全体的に、ビジュアルや、伝わりやすさに非常に気が使われており、定型的なE S G情報ではなく、HORI
BAさんらしさが伝わる非財務情報の結晶となっているように思います。このように本当に伝えたいことだけ
を凝縮し、定型的な情報はWEBなどにまとめるといった方法には非常にいいと感じました。また、トップメッセ
ージは投資家や従業員などのステークホルダーでなくても、非常に読みごたえがあるおもしろいものだと思
います。」

「これからも「おもしろおかしく」イノベーションを推進いただけることを期待しています。」

といったお声を頂戴しました。

マーケティング部 福本 美帆



ちょっといい話

【秋は統合報告書の季節】

皆さん、こんにちは。

企業が年に一度、発行する報告書に「統合報告書」というものがあります。

この統合報告書は、法律で開示が定められた財務情報だけでなく、自社の創業の想い、歴史、経営ビジョン、事業展開、ガバナンス、ESG＝環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）などの非財務情報も加えて作成されます。

これだけの情報が集められたものは、なかなかありませんので企業のことをよく知るには最も良い資料だと思います。

近年、この報告書を発行する企業が増えてきています。それは、企業側が株主だけでなく、お客様、取引先、社員、地域社会など、あらゆるステークホルダー（企業がかかわりを持つ対象）を意識した経営に変わってきているからです。

株価の変動に注目して短期で売買する投資家には、あまり参考にならないかもしれませんが、企業の長期的な成長に投資をする長期投資家にはとても役立つ資料です。

コモンズ投信は、長期投資家として、この統合報告書をマニアのように注目し大切にしています。私も、ある企業を調べるときに過去20年間に遡ってこの報告書（アニュアルレポート含む）を読み込んだこともあります。

長い期間に渡って読み込むと、なぜ、この時期は業績が好調だったのか、あるいは不調だったのかも分かってきます。

白黒の画像がカラーで見えてくるような感覚でした。こうしたこともあり、企業側から新しく作成する統合報告書について、事前に意見交換を求められることも少なくありません。

また、当社では毎年、この統合報告書を読み解くセミナーも行っています。

今年も9月に堀場製作所、10月にはエーザイの担当者をお招きしてのセミナーを開催しています。

今回のポイントはどこにあるのか、今後、中長期的に何を目指していくのか、そして何を大切にしているのかなど統合報告書を通じて参加者の皆さんと意見交換を行うのです。

これは、企業側にはフィードバックを得る機会、参加者側には企業を深く理解する機会となり、お互いに気づきや学びにつながっています。このセミナーの様子は、当社の月次報告書や動画配信などでも紹介されています。

秋の夜長、通常の読書に加えて、新しく発行される企業の統合報告書を読んでもいいと思います。

投資家だけでなく、同業他社の研究や、学生の皆さんが就職を考える際にもとても役立つと思いますよ。もちろん、当ファンドの投資先の多くは発行していますので、ファンドの理解にも役立ちます。

なお、こちらは静岡銀行グループの統合報告書です。是非、ご覧ください。

[ディスクロージャー誌 | 株主・投資家のみなさま | 静岡銀行 \(shizuokabank.co.jp\)](#)

コモンズ投信代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗





販売会社一覧

販売会社名称	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第5号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第10号	○			



投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくご申し上げます。

なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

基準価額の変動要因となる主なリスク

株価変動リスク	当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといいます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
為替変動およびカントリーリスク	外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。



その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部戻りに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.3%（消費税込）が上限となっております。
換金手数料	ありません。
運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年1.265%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額に対して年0.11%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、運用状況、保有機関等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。



お申込みメモ

その他

商品分類	追加型投信/内外/株式
信託設定日	2014年12月29日
信託期間	無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）
決算日	原則として毎年12月18日（休業日のときは、翌営業日を決算日とします。）
分配方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して5営業日
申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。午後3時を過ぎてのお申込みは、翌営業日のお申込みとして取扱います。



ご注意事項

- ・本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ・ファンドの組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。
- ・このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ・投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご確認くださいのうえ、ご自身の判断でお申し込みください。



関係法人

委託会社

コモンズ投信株式会社
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階

- ・金融商品取引業者
- ・関東財務局長（金商）第2061号
- ・加入協会 一般社団法人投資信託協会

お問い合わせ先

- コールセンター（受付時間／平日 午前10時～午後4時）03-3221-8730
- ウェブサイト <https://www.common30.jp/>